

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	3871000190		
法人名	有限会社 ユニット・ワン		
事業所名	グループホーム ユニットぐんちゆう		
所在地	伊予市米湊字西窪1131-3 (電話) 946-7677		
管理者	武智美知子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 10 月 15 日	評価確定日	平成 19 年 12 月 3 日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JRの駅からも幹線道路からも比較的近い所にある。周囲は田畑が残る住宅地で季節の草花を散歩中にも楽しめる。開設して6年が経過し、利用者も職員も落ち着いた生活を送っている。午前中職員と共に楽しんで行うリハビリ体操が、体力の保持や生活リズムを保つ一助になっている。認知度が高く高齢の方も表情豊かである。地域行事等への参加、ボランティアの受け入れ等、利用者の生活を広げることに努めている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
地域とのつきあいについては積極的に地域行事に参加し、またホームへの訪問や行事への参加も促しつながりを広げている。またボランティアの方々にも多く支えられている。職員の研修参加については多くの情報を提示して個々に参加を促し、希望者を調整している。内容によっては出張として取り扱っている。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
職員全員が意義を理解し、自己評価に取り組んでいる。より良いホームにしたいとの思いは強く、職員間の意思の疎通は良い。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
ホームの情報として行事や運営等に関する説明、自治会等への参加状況、ホームの利用状況や行事について、通所介護について、防災訓練について、ボランティアの受け入れ状況について等を報告し、意見交換を行い、その後地域の方々の意見を参考にして取り組んだことを説明している。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
職員は家族の面会・連絡時には不安や意見等を話しやすいように心がけている。苦情相談等については利用時の説明、ホーム内への表示、意見箱設置、介護相談員等で対応している。また小さな事項も必ず検討し対策を立て報告できるよう努めている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
平成19年の努力目標の中に地域との連携を掲げ、成果をあげている。自治会、老人会、いきいきサロン等に参加し、地域行事への参加、ホーム行事に参加を促す等で生活の広がりをみせている。ボランティアにも支えてもらいながらたくさんの楽しみが増えている。特に子どもたちとの交流は好評である。

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6.2 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 15 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	8 名	要介護 2	3 名
要介護 3	4 名	要介護 4	3 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 84 歳	最低 65 歳	最高 102 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を第一の理念にあげ、明るい笑顔でゆったりと生活していただけるよう努めている。センター方式を取り入れ、利用者のニーズを把握し、地域の一員として生活していけるよう努力している。散歩・買い物・催し物他、地域に積極的に関わっていくようにしている。 (外部評価) 職員で検討してホームの理念をつくっている。さらに月々の目標を掲げて日々のケアに役立っている。地域の中で普通に生活することを大切にしている。		認知症対応型通所介護を開始し、現在4名、受け入れているが、平日の利用が少ない為、現在も募集中である。今後も自宅でながく生活できるよう、受け入れをしていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 利用者のニーズを 本人又は家族からつかみ、その実現に向けて カンファレンス他にて話し合いを持ち、実行するように努力している。毎日 笑顔であいさつから始まり、一人一人とのコミュニケーションを大切にしている。 (外部評価) 理念はホーム内に表示したり職員の名札の裏に書いてあり時々確認している。		平均年齢84歳・介護度もそれぞれ異なり介助を要するの高齢者も多いが、本人の持っている力を最大限に発揮していただき、今後ますます楽しみのある生活を送っていただけるよう、スタッフ全員で支援していきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 地域運営推進会議でも 毎回行事他の報告を行い、グループホームでの生活を理解していただけるよう、努力している。天気の良い日には散歩や近郊へのドライブに行き、近所・地域とのつながりを大切にしている。地域から ボランティアの要請があれば、毎回職員が参加している。秋祭りチラン配り。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 地域運営推進会議他にて 度々訪問していただけるよう、お願いをしている。利用者や近くへの買い物時、笑顔であいさつ・コミュニケーションをとっている。又行事の時には近所にもチラシ他にて声掛けし、参加していただいている。(プラスバンド音楽会・秋まつり他)		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 春の地区の総会にも出席し、皆さんにあいさつをし、組にも入れていただいた。地域の「いきいきサロン」「敬老会」伊予市の住吉祭りの踊りにもスタッフほぼ全員にて参加した。 (外部評価) 地域の会議や行事へ参加して情報交換している。自治会、老人会、いきいきサロン等に加入している。近くの学校との交流もしている。調査日には祭りの神輿がホームに来て前庭で披露があった。	※	今年も秋祭りには、小学生・中学生・大人みこしにきて頂く予定。今年から組に入れていただき、益々地域とのふれあいを大切にしていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 認知症対応型通所介護を開始し、現在4名の利用者の受け入れをしている。現在もチラシ等配布し、利用者募集している。地域のボランティアの要請があれば、スタッフ参加している。地域運営推進会議により、地域の様子を聞き、できる範囲のことを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 去年の外部評価書類をじっくりと見直し、改善点をチェックし、皆に伝え、改善している。具体的にどのようにしていくのか考え、実施後も見直している。 (外部評価) 評価の意義を理解しており全員で自己評価に取り組んでいる。評価を活かして具体的に取り組んでおり達成感も味わっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回、前回から今回までの行事の報告をし、写真を見せながら近況報告をし、質問・意見を聞いている。その地域運営推進会議での意見・要望他、ミーティング時に伝えている。地域（近所）からの苦情（夜中、来客時飼犬が大きな声でほえたこと）もありのまま伝え、お詫びした。 <hr/> (外部評価) 地域住民との情報交換、交流などが会議をもつことでより円滑になっている。また具体的な改善等業務にも活かしている。	※	より活発な会議となるようその都度必要な議題を提示し、協議がさらに深まることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市役所長寿介護課に質問他あれば、電話又は訪ねて確認をとるようにしている。定期的な市の主催するグループホーム連絡会には毎回必ず出席し、情報を取り入れ、サービスの質の向上に努めている。又万一、事故があれば市役所にも届けるようにしている。 <hr/> (外部評価) 市担当者は運営推進会議等で訪問がありホームの状況を見てもらっている。また生活保護関係の手続きや質問事項等でもその都度訪問して顔見知りになっており、サービスの質の向上に努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会等に積極的に参加しており、知り得た情報を毎月のカンファレンスにて他の職員に知らせるようにしている。ほとんど身寄りのない利用者が一名いるので、その方の悩みを聞き、将来の不安を少しでも少なくしていくよう、努力している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に積極的に参加しており、新聞・テレビ等で他の施設等で実際におこっている虐待の現状を知り、このグループホームにおいては、絶対にそのような事はないように気をつけている。世間では介護者のストレスが虐待の原因に関係している事も考えられるのでストレス解消を図るようにする。		毎月介護相談員2名の来訪により、心配事・グループホームやスタッフに対する苦情を遠慮せず、言うようにしてもらっている。これまで苦情はないが、より満足していただけるサービスを目指そうと思う。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 理解可能な利用者には、必ず書類を見せながら、十分な説明をして、納得していただいている。家族への手紙には、いつでも意見・質問を受け付けていることを伝えている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月、介護相談員の来訪あり。少しづつ慣れて着たのか、話もはずむようになった。苦情も遠慮なく言ってもらおう、伝えている。又、玄関入口に意見箱を設け、直接言えない様な意見を入れていただくようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時、必ず近況報告をしている。病気・身体機能の変化・普段の様子など、時間の許す範囲にて行っている。毎月の行事報告等、ケアプラン送付時、同封にて送っている。 (外部評価) 面会時に家族と情報交換したり、書類送付にあわせて生活状況や写真、行事案内等を送っている。小遣いについては出納状況をレシートもあわせて示し、確認している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時・又ケアプラン送付時、直接聞いたり、手紙にて意見を書いていただけるようにしている。返信用封筒を必ず同封している。利用者も毎月の介護相談員来訪時、意見・不満を遠慮なく伝えるよう、毎回伝えている。玄関入り口には、意見箱・用紙・えんぴつを用意し、直接入れていただいている。 (外部評価) 面会時やケアプラン送付時等、機会を見つけて意見を引き出すよう働きかけている。また利用開始時には具体的に意見を表す方法を説明している。入口には意見箱を設置している。行事への家族の参加状態もよく、家族同士の交流ができています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ホーム長会議を本社にて開催している。前もって職員にホーム長会議にて伝えてほしいこと・意見を聞いて会議の時に発表し、会長・社長とのパイプ役を積極的に行っている。毎月のケアカンファレンス時も職員の意見・要望必ず聞き、良いことは相談の上、決定・実行している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 一職員より、夕食後多忙な為10～19時勤務の職員を配置してはどうかという意見をもらった。さっそく職員全員で話し合い賛成多数により、実行している。その結果、夕食後のコーヒータイト・就寝介助等、ゆとりを持って介護できるようになった。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職を必要最低限に抑える努力をしている。万一体調不良・引越等し等でやむおえず退職する場合は、利用者にかかる程度に伝えている。新しい職員には、申し送り帳・カルテを読んでもらい、口頭でも説明し、一日も早く利用者を把握し、適切な介護にあたるよう、努力してもらっている。 <hr/> (外部評価) 利用者に配慮しながら、できるだけきちんと伝えるようにしている。他の職員のカバーで今まで特に問題が大きくなったことはない。以前配置換えになった職員の際は利用者主導で色紙の寄せ書きや利用者や職員でアーチを作って見送ったこともある。「また帰ってくるかも」で納得しているようだった。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社協からの連絡は掲示板に貼ったり、口頭で伝えたりして積極的に参加している。又個人的に研修に行きたいと希望あれば、休みをとれるようにしている。なお研修にて一日職場をぬける時には、職員の補充を行い、利用者に影響ないように配慮している。 <hr/> (外部評価) 本人の希望や上司の声かけで段階に応じた内容の研修に参加している。出張での参加、自主参加と内容によって異なるが報告書の提出や伝達等も計画し実践できている。新採用時には背景により異なるがマンツーマンで教育している。ホーム内の研修や勉強会もその都度必要な内容について実施している。		今年、介護福祉士・社会福祉士、職員に受験者あり。研修・試験にての希望休みは、必ず休みをとらせている。実践者研修・管理者研修受講あり。勤務に支障ないように、人数を増やし、安心して研修を受けれるようにしている。パートの中に12月研修予定あり。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価に毎年参加し、地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りを大切にしている。他のグループホーム他で学んだことは、会議他にて報告し、取り入れサービス向上に努めている。研修会・伊予市グループホーム連絡会にも毎回参加し、情報交換他行っている。 (外部評価) 同法人内3ホームの運営会議を月1回行い、行事等は合同で開催することもある。市のグループホーム連絡会にも必ず参加し情報交換している。休憩時間を利用し具体的な事項をはじめ名刺交換等で次につなげている。		研修会参加時には、必ず名刺を持参し、休憩時間・研修後の時間に少しでもあいさつし、交流するようにしている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員一人でかかえ込まず、何でも相談せきするような雰囲気づくりに努めている。重労働時は助け合い、一人だけに負担をかけないようにしている。連休や有給休暇を時にはとらせて、心身共にリフレッシュできるようにもっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 良かった事・頑張っている事は褒めて、他の職員にも伝え良さを認めてあげるようにしている。会長や社長にもがんばっていることを伝えている。意見・提案をじっくりと聞き、その職員の長所を認め、向上心を持って働けるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面接時、ゆっくりと時間を取り、静かな雰囲気の中で話ができるようにしている。困っていること・求めていること・不安なこと、それぞれメモをとり、確認し、グループホームの紹介をしながら、不安なく利用していただけるよう、努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) グループホーム内をゆっくりと案内し、居室他みていただいている。重要事項説明書・利用契約者の説明も時間をかけて丁寧に行う。面接時には家族・利用者のニーズを聞き、そのニーズにそった介護ができるよう、具体的に説明他行い、安心して利用していただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の求めていることをじっくりと聞き、理解し、認知症対応型通所介護等の選択枝もあることを伝え、その上で利用者や家族に決定していただいている。他のサービスの説明、良い点をわかりやすく伝えている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 認知症対応型の通所介護等、お試し期間をもうけ、実際に利用していただきながら、利用者・家族の感想を聞き、サービス開始を決めていただいている。あせらず、馴染んでいけるよう、利用時間も本人・家族の気持ちを聞いた上で決めている。 <hr/> (外部評価) 本人や家族の気持ちをゆっくり知り、お試しで来てもらって一緒に食事したり生活してもらいながら馴染める様になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生先輩であることを忘れず、一緒に生活しながらいろいろと学ばせて頂いていることに感謝している。昔の風習や行事、しきたり等、話を聞きながら、参考にさせて頂いている。一緒に喜び、悲しみも共感し、支え合う関係を大切にしている。 <hr/> (外部評価) 人生の先輩としての生活の知恵を活かせる場面づくりを工夫している。職員は「学ぶことが多い」と思っており一緒に喜んだり悲しんだりのエピソードを大切にしている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、必ず近況報告をしながら、良かったこと・残念だったことなど伝え共感するようにしている。行事の時は案内をし、一緒に過ごしてもらいながら、本人を支えていく環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人からの家族への要望、家族からの本人への要望等あれば、さりげなく伝え、より良いパイプ役となるよう、努めている。家族が本人のことを大切に思っていること、本人も家族が大好きな事、伝えるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所の方が面会にきてくれた時など、できるだけ時間をとり、ゆったりと過ごしていただき、昔話に花をさかせれるよう、配慮している。家に帰り、家を見たいという利用者には、できるだけ望みをかなえてさしあげ、馴染みの人や場所の関係を大切にしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) A棟・B棟自由に行き来できるようにしてあるので、いつでも利用者同士行き来して、部屋内でもゆっくり話ができ、関われるようになっている。友達関係も大切にしており、その関係を職員がさりげなく見守るようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院後、退居となった利用者にも見舞いに時々行き、つきあいを大切にしている。できあがった写真を届けたり、手紙を送ったりしたので、家族からも喜ばれている。今後も関係を断ち切らないようにしたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションをとって行く中で、一人一人の思いや暮らし方の希望を把握していつている。担当の職員もつけており、一対一のゆったりとした時間を大切にしている。会話が困難な場合は家族の意向もふまえ、良い方向へと検討している。 <hr/> (外部評価) ゆったりと落ち着いた生活を大切にしている。職員は利用者の希望を実現したいと考えながら見守っている。誕生日には職員が1対1で利用者の希望を聞いて行きたい所やしたいことを計画し実践している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のシートの活用により、本人や家族に聞きながら、把握に努めている。職員がわかっていないところを把握することにより、本人・家族に理解を得て聞きながら、本人をよく知ろうと努力している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 長い利用者は5年以上入居の方もおり、その方の望む一日の過ごし方も十分理解できている。まだ日の浅い利用者もいろいろな方向から情報を収集し、本人の望む一日の過ごし方に近づけるよう支援している。病気等も把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 病院の医師の意見・理学療法士・家族・本人の意見や希望を大切にしている。全職員がそのことを理解した上でケアカンファレンスを毎月開き、介護計画を作成し、実行し、問題があれば計画作成のやり直しを行なっている。 (外部評価) 利用者、家族、医療関係者との情報交換を大切にし、月1回のカンファレンスで検討し作成している。センター方式の記載を活用し検討を続けている。まだ勉強中だが利用者に対する見方が深くなったと感じている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) おおむね3ヶ月に一度の見直しを行い、本人・家族の意向もふまえながら、必要時新たな介護計画を作成している。急変時・退院後等も随時見直しを行い、確認又は変更を行っている。必要な本人・家族にも知らせ、印鑑にて了承をもらっている。季節を考慮し、水分補給・風邪対策等も盛り込む (外部評価) 月1回のカンファレンスで評価をして、3か月に1回見直しをしている。家族の希望を受け承認印をもらっている。また必要時見直しをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の記録用紙に個人別・時間別に記録を行っている。言ったことなどそのまま記録し、他の職員とも情報を共有している。ケアプランにそっても、実行したこと・様子等記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) リハビリの希望があれば、近藤医院のリハビリを受けて頂いている。定期的に理学療法士にグループホーム内での歩行訓練等、リハビリの様子を情報提供し、指示をもらっている。 (外部評価) ホームで利用できるリハビリ等希望により提供している。また墓参り(年3、4回の人もある)や希望の美容院の利用等支援している。家族の宿泊も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 年に2回の避難訓練を実施。1回は消防署にも連絡し、消防員立ち会いのもと、行なっている。生活保護の利用者は、市役所への手続気等、本人の了解を得て行っている。民生委員の訪問時、g ツループホームの紹介をしながら、地域の中にとけ込めるよう、努力している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) ユニットいよ・まつやまのケアマネジャーと数ヶ月に一度ケアマネジャー会議を開く中で情報交換をし、必要な事を聞いている。グループホーム連絡会でも情報交換を行っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) まだ必要性が無いために、地域包括支援センターとの協働は少ない。	※	今後必要に応じて、地域包括センターとも協働していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 近藤病院に毎日バイタル他、FAXにて送り、必要あれば、TELにて往診依頼をして、異常の早期発見に努めている。滝口歯科にも口腔ケア他随時、相談や受診にて支援してもらっている。 ----- (外部評価) 協力医療機関をはじめ希望のかかりつけ医の受診を支援しておりスムーズに受診できている。家族が受診に付き添えない時も連絡報告はきちんとしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 利用者の中には砥部病院や、こにし診療クリニック・兵頭クリニックにも受診しており、認知症について、相談にのってもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 職員に正看護師、准看護師それぞれ1名おり、毎日どちらかの職員は勤務しており、日常の健康管理をおこなってもらっている。看護面でわからないことは随時相談にのってもらっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は定期的に見舞いに行き、病院関係者から情報を聞き、グループホーム・家族の意向を伝え、できるだけ早期に退院できるようにしている。家族と連絡を密にして随時相談にのっている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期に入った利用者には、家族と連絡を密にしながら、方向性を確認した後、入院かグループホームかを選択していただいている。急変時には、緊急対応になるということも、了解していただいている。本人とも相談重ねている。 ----- (外部評価) 利用開始時をはじめ状態が変化していくごとに利用者・家族の希望について話し合っている。現在までは対応していないが、ホームでの体制が整備され希望があれば終末期ケアをしたいと管理者は考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化及び看取りに関する指針の文書をかわし、押印していただき、本人及び家族の意向を確かめ、こちらの対応方法も伝え、より良き終末期を過ごしていただけるよう、努力している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 自宅からの入居の際には、なじみの物を持ち込んでいただき、なるべく同じ環境の中で生活できるように心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) カンファレンスなどの機会にセンター方式の認知症ケアの勉強会を行い、一人ひとりの尊厳を守りその人らしさを大切にするよう努めている。機会あるごとに、守秘義務の徹底を確認している。 (外部評価) 一人一人を大切にしており言動も適切である。記録類の取扱・保管にも配慮している。また面会ノートは個人別にして職員が管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 一人ひとりとの会話の時間を大切にし、本人の思いに寄り添えるように気を配っている。本人のわかる力を理解し丁寧な声掛けを心がけている。「どちらにしますか？どうしますか？」と決めれる機会を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 体調や気分に応じ、食事の時間や休まれる時間など、一人一人のペースを大切にしている。その都度丁寧な声掛けにより、本人の意思を確認しながら、生活していただくよう心がけている。 <hr/> (外部評価) ホーム内の基本的なスケジュールはあるが、個々のペースを大切に本人の希望にそった支援をしている。体力維持と生活のリズムをつける為にリハビリ体操を午前10時に希望者で行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 介助が必要な方は、洋服を選ぶ時「どれにしますか？どちらにしますか？」本人の意思を確認する。洗面時自分で髪を整えられるよう支援する。なじみの美容室に行くのを楽しみにされている方を支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の好みを把握できるようコミュニケーションを大切にしている。同じ食材で好みの料理を用意したり食べやすい形状にするよう努力している。配膳の手伝い、料理のつぎ分け、食器洗いなど会話を大切にしながら行っている。季節の山菜の下ごしらえの手伝い(つくし・そら豆・エンドウ他) <hr/> (外部評価) 利用者と職員が共に準備や片付けをしており、一人一人にあった支援をしている。食事はほとんどの方が自立しており、時々介護が必要な方はいるがテーブルを囲んで楽しく会話しながら食事している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お茶や白湯は自由に飲むことができるように用意している。夕食後もコーヒーの時間を楽しまれている。家族の差入れや自分で買ったお菓子は居室に置いたり、スタッフと一緒に管理し、楽しまれている。喫煙コーナーを用意し、ゆっくりとタバコが吸えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) トイレに行きたいという気持ちを大切にし、本人の望む時に排泄介助を行っている。夜間の排泄パターンを把握しその都度優しい声掛け・誘導にて、トイレでの排泄を支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴できるようにしているが、ユニットで曜日を決めている。9時から5時頃まで入浴できるようにしており、本人の希望を聞きながら行っている。入浴中はゆっくりとした中で自分の力を出せるよう支援している。会話を大切にし楽しい時間となるよう努めている。 <hr/> (外部評価) 具体的には2日に1回程度の入浴だが個人の希望で毎日の方もいる。入浴できないときは清拭や足浴で対応している。入浴中はゆったりできるよう配慮している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの健康状態や気分を大切にし、本人の思いに寄り添えるよう会話を大切にし、安心して休息したり眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの得意なこと好きな事を知る努力をし、本人が楽しんで力を出せるよう支援している。一人ひとりとの会話を大切にし、若い頃のお話や、得意なことのお話などを楽しめるよう支援している。(縫い物・大正琴・カラオケ・俳句他) <hr/> (外部評価) 若い頃の話の聞いたりしながら利用者の得意なことや好きなことを知り、支援に役立てている。生活の中で役割や楽しみとなるよう大正琴の発表、カラオケ、俳句、縫い物、水やり、洗濯物たたみ等場面や道具を用意している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人や家族とよく話し合い、一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持できるように支援している。所持していない方も希望する時に買い物ができるように支援している。金銭管理のできない利用者でも財布をもたせて職員付き添いにより代金を支払ってもらうようにした。		前回の外部評価時、金銭借りの出来ない利用者でもレジで財布を持たせて支払いし・・・と助いてから、職員にも徹底させている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 受診や買い物、散髪には希望にそって出かけられるように支援している。朝夕庭での散歩を楽しめるよう支援している。天候や体調によるが、近所への散歩やドライブを楽しめるよう支援している。 (外部評価) 受診や理美容院、買い物等希望により出かけている。朝夕、庭や近所への散歩も体調に合わせて支援している。時々ドライブも計画し出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 一人ひとりの誕生日企画として本人の行きたい所を時間をかけて聞き取り、家族と相談し実現できるよう支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 部屋に電話があり、希望に応じ電話ができるように支援している。年賀状を自筆で書けるよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 馴染みの方々が気軽に訪問できるよう笑顔でお迎えし、飲み物を飲んでいただき、ゆっくりと過ごしていただいている。本人の普段の様子をお伝えし、気軽に声をかけていただけるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 不必要なベッド柵は取り除き、車椅子でのカットテーブルも使用していない。点滴中も度々の見守りにより、身体拘束は行っていない。安全な範囲で、利用者は自分の意志で行きたい所へ自由にいけるよう守られている。もちろん、言葉による拘束も行っていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 朝玄関のドアを開けて朝の空気を入れる。基本的にはドアも開けており、常に庭を眺められるようにしている。本人の希望により居室に鍵をつけている部屋もあるが、本人が自由に鍵を使用している。 (外部評価) 玄関は気候などの変化に応じて開閉しているが日中施錠はしていない。居室は鍵はかけていないが、利用者が自主的に施錠をしている所も一部ある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 昼間居室におられる方にも時折スタッフが声をかけるよう心がけている。庭に出られる時はスタッフが一緒に出るようにしている。夜間も2時間ごとの見守りを行い、必要に応じ声かけ介助を行い、安心して暮らしていただけるよう配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの力をよく知り、力に応じて居室で管理していただく。日々様子を把握し、スタッフどうし情報を共有し危険を未然に防げるよう努めている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 研修会で学んだことを月一回のケアカンファレンス時に報告し、転倒・火災防止他事故防止に努めている。歩行訓練中の付き添いはかかさない。外出・散歩時も必ず付きそう。年2回の火災訓練の実施により、火災発生防止他について一人一人の状態に応じて想定し、訓練し反省し学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時・事故発生時、すぐに連絡がとれるよう、電話連絡網もつくっている。事故・救急発生時、慌てないようにマニュアルをつくり、万一の場合もその用紙を見ながら落ち着いて行動が取れるようにしている。救急当番医表を目につく場所に貼り出している。定期的に訓練を行っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に2回の避難訓練の実施により、より迅速に対応できるようにしている。1回は消防署の立ち会いにより、消化訓練を勉強させていただいたり、批評をいただきながらより避難訓練のレベルアップをはかっている。地域連携推進会議においても、地域の方に協力を呼び掛けている。 (外部評価) 年2回の訓練を消防署の協力を得て実施し、評価して次回に活かしている。地域との協力も運営推進会議、自治会等を通して体制を整えている。マニュアルを作成しており連絡体制も整備している。	※	地震等非常災害時の対応や備蓄等も検討し、より充実したものとなることを期待する。またホームを避難場所とするなどホームの地域貢献の方法等も検討事項に加えることを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 一人一人の病気・身体的能力を理解し、今後予想される症状・リスクも考慮した上で、どのように過ごして頂いたらよいか、職員全員で考えるようにしている。本人の願いを尊重しながら、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 1日2回のバイタルチェック・毎日の食事量・排便チェックにより、異常の早期発見に努めている。気付いた事は速やかに病院他へ報告し、指示をおおぐようにしている。他病院受診の連絡・受診結果の報告も毎日随時行っている。必要であれば、すばやく家族他へも連絡し早期対応に結び付けている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬がでた際には、処方箋を読むことにより、薬の目的や副作用他について理解するようにしている。又連絡ノートに伝えなければならない事を明記し、情報の共有に努めている。服薬の確認を必ず行っている。症状の変化にも気をつけ、気になる事があれば、病院に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の原因や及ぼす影響について理解し、毎日排便チェックをしながら、予防に取り組んでいる。一日3回のお茶タイム・風呂上がり・散歩後・夜間の水分補給にも気を配っている。バナナ・ヨーグルト・牛乳・繊維の多い食べ物等気を付けている。毎日の健康体操・リハビリもかかささない。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアにより、口腔内を清潔に保ち、感染予防に気をつけている。自立にできない利用者に対しては、声かけ・誘導・介助等能力に合わせて支援している。入歯は、毎晩ポリドントにて洗浄し清潔保持に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量をチェックすることにより、量・バランスを一人一人把握している。体重測定も毎週行っている。一週間での増減をチェックし、病院へも報告し、必要あれば、エンシユア等の摂取も開始している。自立にて水分補給ができない方は、気をつけて介助行い、脱水症を防いでいる。 (外部評価) 食事摂取カロリーや水分量は一人ひとり把握している。必要時には医師の指導も受けている。献立は利用者の希望を取り入れたものを栄養士が作成している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 毎日の床のジア消毒清掃・秋・冬場は特に手すり・洗面所のレバー・トイレの接触部分も消毒を行っている。冬場は面会もなるべく玄関のみに行き、外部からの感染症予防に気をつけている。調理者のマスク・ガウン・必要時グローブ使用、食器の煮沸消毒・面会者の手の消毒。手洗いの徹底他。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所では履き物も変えている。調理器具の消毒・衛生管理に努めている。食材も熱湯消毒をしたり、湯どおししたりして、生のままでは使っていない。食器も決められた場所へ保管し、冷蔵庫も定期的に整理し衛生管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 草花を植え親しみやすい雰囲気を大切にしている。玄関はできるだけ開放し誰でもが出入りしやすいようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) カーテンや天窓のブラインドで光の調節をしている。季節の花を飾ったり、季節のものを利用者と一緒にて手作りし飾って楽しんでいる。毎月のカレンダーも季節のものを取り入れ作っている。 (外部評価) 共用スペースは広くゆったりしている。畳コーナーの中央は掘りごたつ形式となっており利用しやすい。入口、居間、食堂等、季節の花が飾ってあり利用者の作品も紹介している。洗面、トイレ、風呂等、手すりや滑り止めの配慮もある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 同じ場所が安心できる方には決まった居場所を確保している。玄関・畳・ソファ・食卓と好きな場所に移動して気の合う利用者同士で会話を楽しませている。足が不自由な方が多く掘りごたつのテーブルがあまり活用されていない。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の馴染みの物や好みの物を持って来て頂き安心して心地よく過ごせる部屋になるよう配慮している。居室の掃除片付けも本人と一緒にいき本人の思いを大切にしている。 (外部評価) 家庭で使用していたタンス、机、いす、鏡台、趣味の品等を配置している。掃除や片付けは職員と共にする利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) できるだけ玄関ドアを開放している。天窓を随時開けて空気入れ替えに努めている。冷暖房はこまめに調節して、座っている利用者が快適でいられるように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	(自己評価) 2ユニット・中庭すべてバリアフリーとなっており、車椅子の利用者でも行きたい所へ自由にいけるようにしてある。手すり・ベッドの使用により、楽に移乗ができるようになっている。台所もガスはしよせず、電気調理器具であり、安全な生活を送っていただいている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりのわかる力を理解するよう日々見守り、情報をシートに記入することでスタッフ間で共有している。できることわかることはゆっくりと時間をかけ、できないことわからないことはさりげなく支援し、混乱や失敗を防ぐよう努力している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭に草花や果物野菜を植え、利用者も草引きや水やりを手伝い、成長を楽しんでいる。農業高校のボランティアの生徒と花壇づくりを楽しむ。窓から見える田畑の様子を楽しめるよう声かけを心がけている。	※	

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	職員一人一人に、担当者を2名つけている。責任を持って関わっていくようにしている。この担当は約半年に一度かわっている。かわることで、いろいろな利用者を深く知り、理解することができる。又、毎月のケアカンファレンスにて 新たな希望・意向他伝え、確認している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	毎日の健康体操・お茶の後、レクレーション他しながら、利用者と職員がゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	朝食も起床された順に、好きな時間に食べていただいている。朝の健康体操も強制ではなく、自由参加である。レクレーションも声かけはするが、自室にて過ごしたい方は、自室にて過ごしていただくようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎朝、一人一人の利用者とあいさつし、なじみの関係を大切にしている。自分を大切にしてもらっているという気持ちが、安心につながり、生き生きとした表情や姿がみられている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフの人数・グループホームの予定もあり、いつでもということにはならないが、なるべく希望をかなえてさしあげるようにしている。自分の誕生日には、スタッフと一対一にて、希望の場所に行くことを企画し、実行している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日2回、バイタル測定を行っている。異常あれば、すぐ近藤医院に連絡を取り、受診又は往診の体制が整っている。伊予病院の訪問看護との契約もあり、夜間・祝祭日も安心である。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事もおかゆ・きざみ他用意し、個々にあわせた形態をとっている。体調に留意し、車椅子の利用者は昼食後ほかベッド臥床するなど、一人一人の状態にあった介護に心がけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価)	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ケアプランの発送時、手紙をつけ、いつでも相談できる体制をとっている。面会時も毎回あいさつし、近況報告を行い、コミュニケーションをとりながら 何かあれば相談しやすい雰囲気を作っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	ボランティアの受け入れを行っており、数ヶ月に一度 尺八・ギター演奏・カラオケショーなど訪問に来ている。学生ボランティアも中学生・短大生他来られる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	数カ月に一度、地域運営推進会議を開いている。利用者ともすこしづつ顔なじみとなった。散歩をしても 声わかけてくださる。又散歩の時のあいさつが良いと、先日お褒めをいただいた。地域の催しに参加したり、地域のボランティアにもスタッフが数回参加している。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎朝、一人一人の職員・利用者とあいさつし、笑顔で一日のスタートが始まる。レクリエーション係・入浴係・食事係など当番を決め、生き生きとした表情で働いている。悩みがあれば、聞き すこしでも解決するよう皆で努力し 安心して働けるようにしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人一人のニーズを把握し、その人らしい生活の仕方を大切にしている。ありがとうと 時どき御礼のことばをいただいている。笑顔がみられ、ゆったりと生活していただいている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	コミュニケーションを大切にし、ニーズを確認し合っているので、グループホームでの生活に家族も満足していただいている。ここでよかったという言葉 度々いただいている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

地域とのつながりを大切にしている。地域運営推進会議にて地域の情報を知らせていただき、地域の行事等に積極的に参加している。ボランティアの受け入れも毎月のようにあり、より利用者とのつながりを深めるようにしている。伊予農業高校からのボランティアが開始され、園芸セラピーや、伊予市にちなんだおやつ作り等、生徒さんたちと始めており、今後の発展が楽しみである。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	ユニット ぐんちゅう
(ユニット名)	B 棟
記入者(管理者)	
氏名	武智 美知子
評価完了日	平成 19 年 9 月 27 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を第一の理念にあげ、明るい笑顔でゆったりと生活していただけるよう努めている。センター方式を取り入れ、利用者のニーズを把握し、地域の一員として生活していけるよう努力している。散歩・買い物・催し物他、地域に積極的に関わっていくようにしている。 (外部評価) 職員で検討してホームの理念をつくっている。さらに月々の目標を掲げて日々のケアに役立てている。地域の中で普通に生活することを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 利用者のニーズを 本人又は家族からつかみ、その実現に向けて カンファレンス他にて話し合いを持ち、実行するように努力している。毎日 笑顔であいさつから始まり、一人一人とのコミュニケーションを大切にしている。 (外部評価) 理念はホーム内に表示したり職員の名札の裏に書いてあり時々確認している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 利用者のニーズを 本人又は家族からつかみ、その実現に向けて カンファレンス他にて話し合いを持ち、実行するように努力している。毎日 笑顔であいさつから始まり、一人一人とのコミュニケーションを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 地域運営推進会議他にて 度々訪問していただけるよう、お願いをしている。利用者や近くへの買い物時、笑顔であいさつ・コミュニケーションをとっている。又行事の時には近所にもチラシ他にて声掛けし、参加していただいている。(プラスバンド音楽会・秋まつり他)		散歩を多く取り入れ、近隣の方との挨拶や会話を大切にして、さらにお付き合いを深め気軽に来て頂けるようにしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 春の地区の総会にも出席し、皆さんにあいさつをし、組にも入れていただいた。地域の「いきいきサロン」「敬老会」伊予市の住吉祭りの踊りにもスタッフほぼ全員にて参加した。 (外部評価) 地域の会議や行事へ参加して情報交換している。自治会、老人会、いきいきサロン等に参加している。近くの学校との交流もしている。調査日には祭りの神輿がホームに来て前庭で披露があった。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 認知症対応型通所介護を開始し、現在4名の利用者の受け入れをしている。現在もチラシ等配布し、利用者募集している。地域のボランティアの要請があれば、スタッフ参加している。地域運営推進会議により、地域の様子を聞き、できる範囲のことを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 去年の外部評価書類をじっくりと見直し、改善点をチェックし、皆に伝え、改善している。具体的にどのようにしていくのか考え、実施後も見直している。 (外部評価) 評価の意義を理解しており全員で自己評価に取り組んでいる。評価を活かして具体的に取り組んでおり達成感も味わっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回、前回から今回までの行事の報告をし、写真を見せながら近況報告をし、質問・意見を聞いている。その地域運営推進会議での意見・要望他、ミーティング時に伝えている。地域（近所）からの苦情（夜中、来客時飼い犬が大きな声でほえたこと）もそのまま伝え、お詫びした。 <hr/> (外部評価) 地域住民との情報交換、交流などが会議をもつことでより円滑になっている。また具体的な改善等業務にも活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市役所長寿介護課に質問他あれば、電話又は訪ねて確認をとるようにしている。定期的な市の主催するグループホーム連絡会には毎回必ず出席し、情報を取り入れ、サービスの質の向上に努めている。又万一、事故があれば市役所にも届けるようにしている。 <hr/> (外部評価) 市担当者は運営推進会議等で訪問がありホームの状況を見てもらっている。また生活保護関係の手続きや質問事項等でもその都度訪問して顔見知りになっており、サービスの質の向上に努めている。		※ より活発な会議となるようその都度必要な議題を提示し、協議がさらに深まることを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会等に積極的に参加しており、知り得た情報を毎月のカンファレンスにて他の職員に知らせるようにしている。ほとんど身寄りのない利用者が一名いるので、その方の悩みを聞き、将来の不安を少しでもなくしていくよう、努力している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に積極的に参加しており、新聞・テレビ等で他の施設等で実際におこっている虐待の現状を知り、このグループホームにおいては、絶対にそのような事はないように気をつけている。介護者のストレスが虐待の原因に関係している事も考えられるので ストレス解消を図るようにする。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 理解可能な利用者には、必ず書類を見せながら、十分な説明をして、納得していただいている。家族への手紙には、いつでも意見・質問を受け付けていることを伝えている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月、介護相談員の来訪あり。少しづつ慣れて着たのか、話もはずむようになった。苦情も遠慮なく言ってもらおう、伝えている。又、玄関入口に意見箱を設け、直接言えない様な意見を入れていただくようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時、必ず近況報告をしている。病気・身体機能の変化・普段の様子など、時間の許す範囲にて行っている。毎月の行事報告等、ケアプラン発送時、同封にて送っている。 (外部評価) 面会時に家族と情報交換したり、書類送付にあわせて生活状況や写真、行事案内等を送っている。小遣いについては出納状況をレシートもあわせて示し、確認している。		ホーム便りにてさらに詳しい様子をお知らせしていきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時・又ケアプラン送付時、直接聞いたり、手紙にて意見を書いていただけるようにしている。返信用封筒を必ず同封している。利用者も毎月の介護相談員来訪時、意見・不満を遠慮なく伝えるよう、毎回伝えている。玄関入り口には、意見箱・用紙・えんぴつを用意し、直接入れていただいている。 (外部評価) 面会時やケアプラン送付時等、機会を見つけて意見を引き出すよう働きかけている。また利用開始時には具体的に意見を表す方法を説明している。入口には意見箱を設置している。行事への家族の参加状態もよく、家族同士の交流ができています。		家族会の設置を検討していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ホーム長会議を本社にて開催している。前もって職員にホーム長会議にて伝えてほしいこと・意見を聞いて会議の時に発表し、会長・社長とのパイプ役を積極的に行っている。毎月のケアカンファレンス時も職員の意見・要望を必ず聞き、良いことは相談の上、決定・実行している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 一職員より、夕食後多忙な為10～19時勤務の職員を配置してはどうかという意見をもらった。さっそく職員全員で話し合い賛成多数により、実行している。その結果、夕食後のコーヒータイトム・就寝介助等、ゆとりを持って介護できるようになった。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職を必要最低限に抑える努力をしている。万一体調不良・引越等し等でやむおえず退職する場合は、利用者も理解できる範囲で伝えている。新しい職員には、申し送り帳等を読んでもらい、口頭でも説明し、一日も早く利用者を把握し、適切な介護にあたるよう努力してもらっている。 ----- (外部評価) 利用者に配慮しながら、できるだけきちんと伝えるようにしている。他の職員のカバーで今まで特に問題が大きくなったことはない。以前配置換えになった職員の際は利用者主導で色紙の寄せ書きや利用者と職員でアーチを作って見送ったこともある。「また帰ってくるかも」で納得しているようだった。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社協からの連絡は掲示板に貼ったり、口頭で伝えたりして積極的に参加している。又個人的に研修に行きたいと希望があれば、休みをとれるようにしている。なお研修にて一日職場をめぐる時には、職員の補充を行い、利用者に影響ないように配慮している。 ----- (外部評価) 本人の希望や上司の声かけで段階に応じた内容の研修に参加している。出張での参加、自主参加と内容によって異なるが報告書の提出や伝達等も計画し実践できている。新採用時には背景により異なるがマンツーマンで教育している。ホーム内の研修や勉強会もその都度必要な内容について実施している。		社内研修にて認知症ケアの理解や介護技術の向上を目指して全員がレベルアップするような取り組みを行っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価に毎年参加し、地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りを大切にしている。他のグループホーム他で学んだことは、会議他にて報告し、取り入れサービス向上に努めている。研修会・伊予市グループホーム連絡会にも毎回参加し、情報交換他行っている。 (外部評価) 同法人内3ホームの運営会議を月1回行い、行事等は合同で開催することもある。市のグループホーム連絡会にも必ず参加し情報交換している。休憩時間を利用し具体的な事項をはじめ名刺交換等で次につなげている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員一人がかかえ込まず、何でも相談できるような雰囲気づくりに努めている。重労働時は助け合い、一人だけに負担をかけないようにしている。連休や有給休暇を時にはとらせて、心身共にリフレッシュできるようにもっていつている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 良かった事・頑張っている事は褒めて、他の職員にも伝え良さを認めるようにしている。会長や社長にも頑張っていることを伝えている。意見・提案をじっくりと聞き、その職員の長所を認め、向上心を持って働けるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面接時、ゆっくりと時間を取り、静かな雰囲気の中で話しができるようにしている。困っていること・求めていること・不安なこと、それぞれメモをとり、確認し、グループホームの紹介をしながら、不安なく利用していただけるよう、努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) グループホーム内をゆっくりと案内し、居室他見ていただいている。重要事項説明書・利用契約者の説明も時間をかけて丁寧に行う。面接時には家族・利用者のニーズを聞き、そのニーズにそった介護ができるよう、具体的に説明他行い、安心して利用していただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の求めていることをじっくりと聞き、理解し、認知症対応型通所介護等の選択枝もあることを伝え、その上で利用者や家族に決定していただいている。他のサービスの説明、良い点をわかりやすく伝えている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 認知症対応型の通所介護等、お試し期間をもうけ、実際に利用していただきながら、利用者・家族の感想を聞き、サービス開始を決めていただいている。あせらず、馴染んでいけるよう、利用時間も本人・家族の気持ちを聞いた上で決めている。 <hr/> (外部評価) 本人や家族の気持ちをゆっくり知り、お試しで来てもらって一緒に食事したり生活してもらいながら馴染める様になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩であることを忘れず、一緒に生活しながらいろいろと学ばせて頂いていることに感謝している。昔の風習や行事、しきたり等、話を聞きながら、参考にさせて頂いている。一緒に喜び、悲しみも共感し、支え合う関係を大切にしている。 <hr/> (外部評価) 人生の先輩としての生活の知恵を活かせる場面づくりを工夫している。職員は「学ぶことが多い」と思っており一緒に喜んだり悲しんだりのエピソードを大切にしている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、必ず近況報告をしながら、良かったこと・残念だったことなど伝え共感するようにしている。行事の時は案内をし、一緒に過ごしてもらいながら、本人を支えていく環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人からの家族への要望、家族からの本人への要望等あれば、さりげなく伝え、より良いパイプ役となるよう、努めている。家族が本人のことを大切に思っていること、本人も家族が大好きな事、伝えるようにしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所の方が面会にきてくれた時など、できるだけ時間をとり、ゆったりと過ごしていただき、昔話を楽しめるよう配慮している。家に帰り、家を見てみたいという利用者には、できるだけ望みをかなえてさしあげ、馴染みの人や場所の関係を大切にしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) A棟・B棟自由に行き来できるようにしてあるので、いつでも利用者同士行き来して、部屋内でもゆっくり話ができて、関われるようになっている。友達関係を大切に見守り、一人ひとりが孤立しないよう職員がさりげなく間に入ったり声をかけたりしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院後、退居となった利用者にも見舞いに時々行き、つきあいを大切にしている。できあがった写真を届けたり、手紙を送ったりして、家族からも喜ばれている。今後も関係を断ち切らないようにしたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションをとって行く中で、一人一人の思いや暮らし方の希望を把握していつている。担当の職員もつけており、一対一のゆったりとした時間を大切にしている。会話が困難な場合は家族の意向もふまえ、本人が安心して暮らせるよう検討している。 (外部評価) ゆったりと落ち着いた生活を大切にしている。職員は利用者の希望を実現したいと考えながら見守っている。誕生日には職員が1対1で利用者の希望を聞いて行きたい所やしたいことを計画し実践している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のシートの活用により、本人・家族に理解を得て聞き取り、これまでの暮らしの様子を把握し本人をよく知ろうと努力している。		センター方式のシートの活用により、面会時等さらに家族との会話を大切にして、本人のこれまでの暮らしの把握をして理解を深めていく。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 長い利用者は5年以上入居の方もおり、その方の望む一日の過ごし方も理解できている。まだ日の浅い利用者もいろいろな方向から情報を収集し、本人の望む一日の過ごし方に近づけるよう支援している。病気等も把握している。		センター方式のシートの活用により、一日の過ごし方、できること・できないこと、わかること・わからないことを把握をして理解を深めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 病院の医師の意見・理学療法士・家族・本人の意見や希望を大切にしている。全職員がそのことを理解した上でケアカンファレンスを毎月開き、介護計画を作成し、実行し、問題があれば計画作成のやり直しを行っている。 <hr/> (外部評価) 利用者、家族、医療関係者との情報交換を大切に、月1回のカンファレンスで検討し作成している。センター方式の記載を活用し検討を続けている。まだ勉強中だが利用者に対する見方が深くなったと感じている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) おおむね3ヶ月に一度の見直しを行い、本人・家族の意向もふまえながら、必要時新たな介護計画を作成している。急変時・退院後等も随時見直しを行い、確認又は変更を行っている。必要な本人・家族にも知らせ、印鑑にて了承をしてもらっている。 <hr/> (外部評価) 月1回のカンファレンスで評価をして、3か月に1回見直しをしている。家族の希望を受け承認印をもらっている。また必要時見直しをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の記録用紙に個人別・時間別に記録を行っている。利用者の言葉や行ったことをそのまま記録し、他の職員とも情報を共有している。ケアプランにそつても、実行したこと・様子等記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) リハビリの希望があれば、近藤医院のリハビリを受けて頂いている。定期的に理学療法士にグループホーム内での歩行訓練等、リハビリの様子を情報提供し、指示をもらっている。 (外部評価) ホームで利用できるリハビリ等希望により提供している。また墓参り(年3、4回の人もある)や希望の美容院の利用等支援している。家族の宿泊も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 年に2回の避難訓練を実施。1回は消防署にも連絡し、消防署員立ち会いのもと、行なっている。生活保護の利用者は、市役所への手続気等、本人の了解を得て行っている。民生委員の訪問時、グループホームの紹介をしながら、地域の中にとけ込めるよう、努力している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) ユニットいよ・まつやまのケアマネジャーと数ヶ月に一度ケアマネジャー会議を開く中で情報交換をし、必要な事を聞いている。グループホーム連絡会でも情報交換を行っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) まだ必要性が無いために、地域包括支援センターとの協働は少ない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 近藤病院に毎日バイタル他、FAXにて送り、必要あれば、TELにて往診依頼をして、異常の早期発見に努めている。たきぐち歯科にも口腔ケア他随時、相談や受診にて支援してもらっている。 <hr/> (外部評価) 協力医療機関をはじめ希望のかかりつけ医の受診を支援しておりスムーズに受診できている。家族が受診に付き添えない時も連絡報告はきちんとしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 砥部病院や、こにし診療クリニックにも受診しており、認知症について、相談にのってもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 職員に正看護師、準看護師それぞれ1名おり、毎日どちらかの職員は勤務しており、日常の健康管理をおこなってもらっている。看護面でわからないことは随時相談にのってもらっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は定期的に見舞いに行き、病院関係者から情報を聞き、グループホーム・家族の意向を伝え、できるだけ早期に退院できるようにしている。家族と連絡を密にして随時相談にのっている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期に入った利用者には、家族と連絡を密にしながら、方向性を確認した後、入院かグループホームかを選択していただいている。急変時には、緊急対応になるということも、了解していただいている。本人とも相談重ねている。 <hr/> (外部評価) 利用開始時をはじめ状態が変化していくごとに利用者・家族の希望について話し合っている。現在までは対応していないが、ホームでの体制が整備され希望があれば終末期ケアをしたいと管理者は考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化及び看取りに関する指針の文書をかわし、押印していただき、本人及び家族の意向を確かめ、こちらの対応方法も伝え、より良き終末期を過ごしていただけるよう、努力している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 自宅からの入居の際には、なじみの物を持ち込んでいただき、できるだけ安心できる環境の中で生活できるように心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) カンファレンスなどの機会にセンター方式の認知症ケアの勉強会を行い、一人ひとりの尊厳を守りその人らしさを大切にするよう努めている。機会あるごとに、守秘義務の徹底を確認している。 (外部評価) 一人一人を大切にしており言動も適切である。記録類の取扱・保管にも配慮している。また面会ノートは個人別にして職員が管理している。		センター方式を学び、スタッフ全員で認知症ケアについて理解を深めたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 一人ひとりとの会話の時間を大切にし、本人の思いに寄り添えるように気を配っている。本人のわかる力を理解し丁寧な声掛けを心がけている。「どちらにしますか？どうしますか？」と決めれる機会を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 体調や気分に応じ、食事の時間や休まれる時間など、一人一人のペースを大切にしている。その都度丁寧な声掛けにより、本人の意思を確認しながら、生活していただくよう心がけている。 (外部評価) ホーム内の基本的なスケジュールはあるが、個々のペースを大切に本人の希望にそった支援をしている。体力維持と生活のリズムをつける為にリハビリ体操を午前10時に希望者で行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 介助の必要な方は、洋服を選ぶ時「どれにしますか？どちらにしますか？」本人の意思を確認する。洗面時自分で髪を整えられるよう支援する。なじみの美容室に行くのを楽しみにされている方を支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の好みを把握できるようコミュニケーションを大切にしている。同じ食材で好みの料理を用意したり食べやすい形状にするよう努力している。配膳の手伝い、料理のつぎ分け、食器洗いなど会話を大切にしながら行っている。 (外部評価) 利用者と職員が共に準備や片付けをしており、一人一人にあった支援をしている。食事はほとんどの方が自立しており、時々介護が必要な方はいるがテーブルを囲んで楽しく会話しながら食事している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お茶や白湯は自由に飲むことができるように用意している。夕食後もコーヒーの時間を楽しませている。家族の差し入れや自分で買ったお菓子は居室に置いたり、スタッフと一緒に管理し、楽しませている。喫煙コーナーを用意し、ゆっくりとタバコが吸えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄することを大切に支援している。夜間もトイレに行くという気持ちを大切に支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴できるようにしているが、ユニットで曜日を決めている。9時から5時頃まで入浴できるようにしており、本人の希望を聞きながら行っている。入浴中はのんびりと楽しめる時間となるよう会話を大切に、一つひとつ行程で自分の力を出せるよう支援している。 (外部評価) 具体的には2日に1回程度の入浴だが個人の希望で毎日の方もいる。入浴できないときは清拭や足浴で対応している。入浴中はゆったりできるよう配慮している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの健康状態や気分を大切に、本人の思いに寄り添えるよう会話を大切に、安心して休息したり眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの得意なこと好きな事を知る努力をし、本人が楽しんで力を出せるよう支援している。一人ひとりの会話を大切に、若い頃のお話や、得意なことのお話などを楽しめるよう支援している。 (外部評価) 若い頃の話の聞いたりしながら利用者の得意なことや好きなことを知り、支援に役立てている。生活の中で役割や楽しみとなるよう大正琴の発表、カラオケ、俳句、縫い物、水やり、洗濯物たたみ等場面や道具を用意している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人や家族とよく話し合い、一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持できるように支援している。所持していない方も希望する時に買い物ができるように支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 受診や買い物、散髪には希望にそって出かけられるように支援している。朝夕庭での散歩を楽しめるよう支援している。天候や体調によるが、近所への散歩やドライブを楽しめるよう支援している。 (外部評価) 受診や理美容院、買い物等希望により出かけている。朝夕、庭や近所への散歩も体調に合わせて支援している。時々ドライブも計画し出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 一人ひとりの誕生日企画として本人の行きたい所を時間をかけて聞き取り、家族と相談し実現できるよう支援している。		本人の行ってみたい所、したいことをもっとじっくりと聞き取り、さらに喜びのある一日を過ごせるように支援していく。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 部屋に電話があり、希望に応じ電話ができるように支援している。年賀状を自筆で書けるよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 馴染みの方々が気軽に訪問できるよう笑顔でお迎えし、飲み物を飲んでいただき、ゆっくりと過ごしていただいている。本人の普段の様子をお伝えし、気軽に声をかけていただけるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 不必要なベッド柵は取り除き、車椅子でのカットテーブルも使用していない。点滴中も度々の見守りにより、身体拘束は行っていない。安全な範囲で、利用者は自分の意志で行きたい所へ自由にいけるよう守られている。もちろん、言葉による拘束も行っていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 朝玄関のドアを開けて朝の空気を入れる。基本的にはドアも開けており、常に庭を眺められるようにしている。本人の希望により居室に鍵をつけている部屋もあるが、本人が自由に鍵を使用している。 (外部評価) 玄関は気候などの変化に応じて開閉しているが日中施錠はしていない。居室は鍵はかけていないが、利用者が自主的に施錠をしている所も一部ある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 昼間居室におられる方にも時折スタッフが声をかけるよう心がけている。庭に出られる時はスタッフが一緒に出るようにしている。夜間も2時間ごとの見守りを行い、必要に応じ声かけ介助を行い、安心して暮らしていただけるよう配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの力をよく知り、力に応じて居室で管理していただく。日々様子を把握し、スタッフどうし情報を共有し危険を未然に防げるよう努めている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 研修会で学んだことを月一回のケアカンファレンス時に報告し、転倒・火災防止他事故防止に努めている。歩行訓練中の付き添いはかかさない。外出・散歩時も必ず付きそう。年2回の火災訓練の実施により、火災発生防止他について一人一人の状態に応じて想定し、訓練し反省し学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時・事故発生時、すぐに連絡がとれるよう、電話連絡網を作っている。事故・救急発生時、慌てないようにマニュアルをつくり、万一の場合もその用紙を見ながら落ち着いて行動が取れるようにしている。救急当番医表を目につく場所に貼り出している。定期的に訓練を行っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に2回の避難訓練の実施により、より迅速に対応できるようにしている。1回は消防署の立ち会いにより、消化訓練を勉強させていただいたり、批評をいただきながらより避難訓練のレベルアップをはかっている。地域連携推進会議においても、地域の方に協力を呼び掛けている。 (外部評価) 年2回の訓練を消防署の協力を得て実施し、評価して次回に活かしている。地域との協力も運営推進会議、自治会等を通して体制を整えている。マニュアルを作成しており連絡体制も整備している。	※	地震等非常災害時の対応や備蓄等も検討し、より充実したものとなることを期待する。またホームを避難場所とするなどホームの地域貢献の方法等も検討事項に加えることを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 一人一人の病気・身体的能力を理解し、今後予想される症状・リスクも考慮した上で、どのように過ごして頂いたらよいか、職員全員で考えるようにしている。本人の願いを尊重しながら、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 1日2回のバイタルチェック・毎日の食事量・排便チェックにより、異常の早期発見に努めている。気付いた事は速やかに病院他へ報告し、指示をおおぐようにしている。他病院受診の連絡・受診結果の報告も随時行っている。必要あれば、すばやく家族他へも連絡し早期対応に結びつけている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬がでた際には、処方箋を読むことにより、薬の目的や副作用他について理解するようにしている。又連絡ノートに伝えなければならない事を明記し、情報の共有に努めている。服薬の確認を必ず行っている。症状の変化にも気をつけ、気になる事があれば、病院に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の原因や及ぼす影響について理解し、毎日排便チェックをしながら、予防に取り組んでいる。一日3回のお茶タイム・風呂上がり・散歩後・夜間の水分補給にも気を配っている。バナナ・ヨーグルト・牛乳・繊維の多い食べ物等気を付けている。毎日の健康体操・リハビリもかかさない。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後の歯磨きうがいが行えるよう支援している。一人ひとりの力に応じて個別に支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量をチェックし栄養バランスが確保できているか気をつけている。必要ときは病院に報告し指示をおおぐ。水分量が確保できるよう一日3度のお茶以外にも一人ひとりの状態や習慣に応じて水分補給を支援している。 (外部評価) 食事摂取カロリーや水分量は一人ひとり把握している。必要時には医師の指導も受けている。献立は利用者の希望を取り入れたものを栄養士が作成している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 毎日の床のジエ消毒清掃・秋・冬場は特に手すり・洗面所のレバー・トイレの接触部分も消毒を行っている。冬場は面会もなるべく玄関のみにて行い、外部からの感染症予防に気をつけている。調理者のマスク・ガウン・必要時グローブ使用、食器の煮沸消毒・面会者の手の消毒。手洗いの徹底他。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所では履き物も変えている。調理器具の消毒・衛生管理に努めている。食材も熱湯消毒をしたり、湯どおしたりして、生のままでは使っていない。食器も決められた場所へ保管し、冷蔵庫も定期的に整理し衛生管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 草花を植え親しみやすい雰囲気を大切にしている。玄関はできるだけ開放し誰でもが出入りしやすいようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) カーテンや天窓のブラインドで光の調節をしている。季節の花を飾ったり、季節のものを利用者と一緒に手作りし飾って楽しんでいる。毎月のカレンダーも季節のものを取り入れ作っている。 (外部評価) 共用スペースは広くゆったりしている。畳コーナーの中央は掘りごたつ形式となっており利用しやすい。入口、居間、食堂等、季節の花が飾ってあり利用者の作品も紹介している。洗面、トイレ、風呂等、手すりや滑り止めの配慮もある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 同じ場所が安心できる方には決まった居場所を確保している。玄関・畳・ソファ・食卓と好きな場所に移動して気の合う利用者同士で会話を楽しませている。足が不自由な方が多く掘りごたつのテーブルがあまり活用されていない。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の馴染みの物や好みの物を持って来て頂き安心して心地よく過ごせる部屋になるよう配慮している。居室の掃除片付けも本人と一緒にいき本人の思いを大切にしている。 (外部評価) 家庭で使用していたタンス、机、いす、鏡台、趣味の品等を配置している。掃除や片付けは職員と共にする利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) できるだけ玄関ドアを開放している。天窓を随時開けて空気の入替りに努めている。冷暖房はこまめに調節して、座っている利用者が快適でいられるように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 2ユニット・中庭すべてバリアフリーとなっており、車椅子の利用者でも行きたい所へ自由に行けるようにしてある。手すり・ベッドの使用により、楽に移動ができるようになっている。台所もガスは使用せず、電気調理器具であり、安全な生活を送っていただいている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりのわかる力を理解するよう日々見守り、情報をシートに記入することでスタッフ間で共有している。できることわかることはゆっくりと時間をかけ、できないことわからないことはさりげなく支援し、混乱や失敗を防ぐよう努力している。リハビリ用の歩行パーもあり。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭に草花や果物野菜を植え、利用者も草引きや水やりを手伝い、成長を楽しんでいる。農業高校のボランティアの生徒と花壇づくりを楽しむ。窓から見える田畑の様子を楽しめるよう声かけを心がけている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 0 ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	日々の暮らしの中で会話を大切にし、思いや願いを聞きとるように努力している。誕生日には一人ひとりに、したいこと、行きたいところなどを時間をかけて聞き、家族と相談の上実現できるように努力している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	日常の中で、一人ひとりのお話の時間を大切にしている。散歩・スタッフの読むお話を皆で聞く・皆で歌を歌う・ゲームなどのレクリエーションを楽しむなど、ゆったりと過ごす時間を大切にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	おきる時間、寝る時間、食事の時間、余暇の過ごし方も一人ひとりのペースを大切に支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者が不安な時、職員がお話を聞き寄り添うことで安心され笑顔が見られる。職員の励ましにて、自分でできる事に意欲をもたれる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	気候がよければ散歩へ出かける。買い物もできるだけ希望が叶うようにしている。日々の会話の中で行きたい所を聞き取る努力をしている。気候やスタッフの人数により、すぐには対応できない時がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	定期的な健康診断、受診が行われている。かかりつけ医の往診、一日2回のバイタルチェックにより、移乗の早期発見に努めている。看護師・介護職により、移乗時の介助見守りを適切に行う。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その時の状況や要望に応じて、利用者の気持ちに寄り添って安心して頂けるように心がけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会に来られた時には、利用者の様子を話し、コミュニケーションを心がけている。必要に応じ、電話・手紙等でコミュニケーションをとり、信頼関係を大切にしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	地域のボランティアの方の定期的な訪問があり、尺八やギターの演奏、カラオケを披露してもらっている。尺八の小学生はすっかりなじみとなり、「○ちゃん」と親しく呼び合える間柄になっている。おみやげの菓子まで用意する利用者もいる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の行事の案内をいただいたり、廃品回収などの愛護班活動に参加している。事業所の行事に参加・協力頂いている。伊予市内の中高校生他に定期的にボランティアにきていただいている。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士・利用者への朝の挨拶が明るくできている。退勤時もお互いに「お疲れさまでした」と声をかけ合い、職員同士のコミュニケーションも大切にしている。ケアに関する悩みや意見をケアカンファレンスや休憩時間を利用して話しあっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフに感謝の気持ちや、ねぎらいの言葉を笑顔でかけてくださる。スタッフに気軽に声をかけてもらっている。スタッフの人数により、すぐに対応できないこともあるが、待つことを協力してもらっている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	利用者の様子・行事のお知らせなど、その都度、手紙・電話などで知らせている。家族がグループホームに面会に来られた際には、必ず飲み物等を出して、ゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。又家族との会話を毎回大切にしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

明るい笑顔で接している。利用者の「声」に耳を傾け「思い」に寄り添い、一人一人とのコミュニケーションを大切にしている。心地よい居場所、安心できる環境づくり。できる事をゆっくりと見守り、できないことをさりげなく支援して自分のもてる力を発揮して生き生きと暮らしていただいている。散歩等お取り入れ、自然を感じ、近隣の方々とのふれあいをたのしめるように支援している。利用者の誕生日企画として、一人ひとりに事前に行きたい場所・したいことなどを時間をかけて聞き取り、家族とも相談しながら、実現出来るように努力している。今年度から、誕生日企画を開始したが、毎回スタッフとゆっくりと楽しい一時をおくっていただき、喜んでいただいている。